

「銀河通信」200号達成



「銀河通信」200号を手にする樋口みな子さん

江別の樋口さん

88年からミニコミ紙発行

【江別】江別市の主婦、樋口みな子さん(67)が隔月で発行するミニコミ紙「銀河通信」が200号に達した。1988年7月に創刊し、環境や人権問題などを題材にした記事をコツコツと書き続けてきた。樋口さんは「読者の声を励みに、これからも発行を続けたい」と意欲を見せる。

(今井潤)

銀河通信はA4判8ページ。間に起きた時事問題からテーマを選び、樋口さんが思

平和や環境保護 コツコツと

ったことや感じたことをコラム形式でつづる。ページをめくると、樋口さんが足を運んで取材した道内外の講演会やイベントなどの記事が写真とともに掲載されている。3月15日付号で通算200号の節目を迎えた。

趣味の登山や、最新刊の書評、映画の感想なども紹介。読者からは「気軽に読める紙面なのに、心に響くメッセージが埋め込まれている」などと好評だ。

年間購読料は千円で、発行部数は現在、約1500部。読者は国内外に広がり、米国やドイツなど海外の読者には、電子メールで配信している。

創刊当初は「仲間たちに

家族の様子を伝える」目的で、子育てや家庭の様子を書いてきた。紙面は現在より広いB4判の一方、ページは2ページで、部数は20部ほど。すべて手書きだった。

時事問題をテーマにした紙面に変えたのは、家族で訪れた沖縄旅行で、悲惨な太平洋戦争の爪痕や米軍基地問題の深刻さを目の当たりにしたのがきっかけだった。「平和や環境保護を伝える通信」を心掛けるようになったという。2014年には、第2次世界大戦時にユダヤ人が大量虐殺されたポーランドのアウシュビッツ強制収容所を訪れ、紙面で紹介した。

来年は創刊30年。樋口さんは、200号発行について「達成感がある。あと何年続けられるか分からないけれど、これからは戦争体験者取材したい」と力を込める。

購読の問い合わせは、樋口さんの電子メール mingi.nga@agata.piala.or.jp。